

## SER no.016; はじめに

著者	石毛 直道
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	16
ページ	1-1
発行年	2000-10-27
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/1292">http://hdl.handle.net/10502/1292</a>

# はじめに

国立民族学博物館長

石毛 直道

本研究報告書は、国立民族学博物館と株式会社文化総合研究所とのあいだで、平成9・10年におこなわれた共同研究「新しい展示技法の開発と子どもと博物館のコミュニケーションに関する研究」の成果報告書であります。国立民族学博物館では主として博物館活動の分野において民間企業とのあいだでいくつかの共同研究を実施し、新たな情報ソフトや映像ソフトを作成したり、さらには電子ガイドのような展示機器を開発するなど多くの成果をあげてきました。そのような業績のひとつとして本報告書を広く社会に公開できることを関係者の方々とともによろこびたいと思います。

いま、21世紀を目前にしてわが国の博物館はもちろん世界の博物館は大きな転換期にあるといえます。旧来からの価値観が大きく変化し、人びとの社会に対するニーズが多様化するいっぽう、グローバル化も進んできています。そのような社会変化のなかで博物館も時代の変化にあわせて変わらなければなりません。

本報告書のテーマは博物館における新たな技術革新の方向性を探求することです。共同研究の性質上、議論の多くは国立民族学博物館での経験が中心となっていますが、取り上げられた問題のひとつひとつは多くの博物館に共通する課題であろうかと思えます。この報告書を多くの博物館におけるイノベーションに向けての議論の素材として役立てていただければ幸いです。その意味では、本報告書は議論の出発点となるものであり、この報告書を土台にしてこれからの博物館のあり方に向けた議論と研究が開始されることを望みます。

最後に、この共同研究の実施をこころよく申し出ていただいた株式会社文化総合研究所にあらためて感謝の意を表したいと思います。

